

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成21年10月31日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 文学研究科 歴史文化学専修

職 名・学 年 博士後期課程2年

氏 名 中 川 未 来

事業区分	平成21年度・中期派遣助成		
研究課題名	植民地期台湾における『台湾日報』主筆・内藤湖南に関する研究		
受入機関	台湾 中央研究院台湾史研究所		
渡航期間	平成21年7月1日 ~ 平成21年9月30日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(付表2部)		
会計報告	交付を受けた助成金額	650,000円	
	使用した助成金額	650,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空賃:52,800円	
		鉄道・バス賃:45,000円	
		宿泊料:492,200円	
		滞在諸経費:60,000円	
	* 現地滞在中の不足分には私費を用いた。		
	* 研究調査目的以外の費用は私費を用いた。		

成果の概要

- 植民地期台湾における『台湾日報』主筆・内藤湖南の活動に関する研究 -

中川未来

1897年4月、伊藤博文は台湾会（台湾統治関係者の懇親会）において一場の演説を試みた。そこで伊藤は同時代の国際環境を「国民的競争の時代」と捉え、明治国家は日清戦争（1894 - 5年）を契機として、東アジア地域で欧米列強が試みている「境土開拓政略」に身を投じ台湾を領土としたこと、その本質的意義を強調した。即ち「国民的競争の時代」においては「国家の組織」の強弱如何、そして「此の組織上の必要よりしてナショナルリターの統一」こそが国家形成の基盤を為す政治思想的課題となる。台湾事務局総裁として領台期の台湾統治機構形成に関与した伊藤にとって「ナショナルリターの統一に最も重きを置かるゝ国民」が「同種族」であるか否かは必ずしも問題では無かった。領台により中国系住民・少数民族を包摂し名実共に「帝国」として歩み始めた明治国家にとって、問題はその統治の成否 - 「能く域外の人民を統括し得るか否か」 - であり、これこそが日本の「ナショナルリター」の試金石である、と伊藤は認識していたのである。

伊藤博文が指摘するように、同時代において台湾領有は単に政治経済的意味合いのみならず、帝国日本の「ナショナルリター」に関わる問題として認識されていた。それでは明治中期にあって“「日本」「日本人」とは何か”という課題について思想的営為を重ねてきた国粋主義の論者は「域外の人民」を包括する植民地・台湾をどのように捉えたのだろうか。本研究の問題関心はここに端を発する。

検討対象とするのは内藤虎次郎（号・湖南 1866-1934）である。後に京都帝国大学において東洋史を講じ「支那学」の権威として知られる事になる内藤は、当時「国粋主義」を掲げる政教社に属し、『日本人』『大阪朝日新聞』などを舞台にジャーナリストとして活動していた。内藤は『台湾日報』主筆として国粋主義的ジャーナリストとしては唯一、領台初期の台湾で継続的な言論活動を行った人物である。内藤の台湾時代について先行研究では『内藤湖南全集』（以降『全集』と略記）所収論説、及び『全集』解説・回想記が典拠とされ、伝記的研究・内藤湖南研究では『全集』収録論説を総花的に紹介し「シノロジスト」内藤の中国論深化の一過程と評価されてきた。しかしながら『全集』は分量の制約から『台湾日報』全論説を収録しておらず、また内藤が如何なる経緯で台湾に渡り、何時台湾を離れたのか、そして内藤が主宰した『台湾日報』という新聞の創廃刊の経緯など、基礎的な事実確定がなされていないのが現状である。

そこで基礎作業として内藤湖南が台湾時代に残した行動・発言を『全集』未収録論説・『台湾日報』原紙・『臺灣總督府公文類纂』など周辺史料も含めて調査する必要性を痛感し、財団法人京都大学教育振興財団平成21年度助成事業に応募したところ、幸いにも御採択を頂き助成金の交付を受けることが出来た。以下では同助成事業により平成21年7 - 9月にかけ台湾・中央研究院台湾史研究所、国立図書館台湾分館台湾学研究中心、国立台湾大學図書館等において行った史料調査の概略を報告する。なお字数の関係から以下の報告は要点のみとし、全体の調査結果及び考察は今後論文の形で公刊することとしたい。

1. 『台湾日報』原紙の調査

1897年5月8日に創刊され、翌98年4月末日を以て廃刊となった『台湾日報』は1898年3月30日付までが台湾総督府図書館の蔵書を受け継ぐ国立図書館台湾分館に所蔵され、4月分が国立国会図書館及び東京大学明治新聞雑誌文庫に所蔵されている。今回の調査では国立図書館台湾分館台湾学研究中心、及び国立国会図書館の御協力を得てその全てを閲覧し、従来未確認であった約20編の内藤湖南執筆論説・漢詩を発見した。タイトル一覧は付表「主要論説一覧」を参照頂きたい。今回の調査により台湾時代の内藤湖南執筆論説の全貌が初めて明らかとなった。また紙面分析と同時期に発行されていた『台湾新報』記事の閲覧により、内藤湖南を含む編輯スタッフの陣容確定と活動の概要を把握することができた。

2. 『臺灣總督府公文類纂』・『後藤新平文書』の調査

『台湾日報』刊行の経緯を確定するために、中央研究院台湾史研究所・近代史研究所の御協力により『臺灣總督府公文類纂』及び『後藤新平文書』を閲覧し、領台初期における台湾総督府の対メディア政策とその中で『台湾日報』発刊が持った意味を示唆する文書群を確認、調査した。その概要については付表「基礎年表」を参照頂きたい。

3. 関係論文及び『台湾新報』の調査

国立台湾大学及び国立中央図書館に所蔵されている修士論文・博士論文を閲覧し、台湾の歴史学会における植民地統治初期のメディア・官民交流に関する先行研究を収集した。また中央研究院社会科学連合図書館において学術雑誌・研究書の閲覧を行い、関連情報の収集に努めた。

4. その他

国立台湾大学が進めている「日治期法院データベース」の使用申請が受理され、『台湾日報』と総督府の間に発生した官吏侮辱罪事件に関する一次史料を入手することができた。

また受け入れ研究機関である中央研究院台湾史研究所において多くの研究者の方々より史料紹介、研究・調査方針に関する助言を頂き、また関係機関への紹介の労を執って頂くなど様々の便宜を図って頂いた。

以上の基礎的調査により、従来知られていなかった内藤湖南の台湾時代の活動を具体的・総体的に把握することが可能となった。

末尾になるが、現今の科学研究費削減の動きの中で、短期間ではその具体的成果が見えてこない人文学系の基礎的研究に対して寛大な援助の手を差し伸べていただいた財団法人京都大学教育研究振興財団に御礼を述べたい。御助成による研究の具体的成果を論文として刊行し社会に還元することで、僅かなりとも御恩に報いたいと考える次第である。

付表1 『台湾日報』所収 内藤虎次郎主要論説一覧

通番	日付	タイトル	署名	『全集』	備考
1	30/7/2	移風易俗の期 下	×	×	社説
2	30/7/4	総督府条例改正の議	×	×	社説
3	30/7/6	須らく誤解を正すべし	×		社説
4	30/7/9	第三疑獄又起る	×	×	社説
5	30/7/15	台湾の地方行政 一	×	×	社説
6	30/7/17	台湾の地方行政 二	×	×	社説
7	30/7/20	台湾の地方行政 三	×	×	社説
8	30/7/22	台湾の地方行政 四	×	×	社説
9	30/7/24	水野前民政局長を送る	×		社説
10	30/7/27	移風易俗の一策	×		社説
11	30/7/27	時還読我書	黒頭		『全集』署名なし
12	30/7/29	台湾施政の好望	×		社説
13	30/7/31	変通なき一視同仁	×		社説
14	30/8/1	交通機関拡大の急務 上	×		社説
15	30/8/3	交通機関拡大の急務 下	×		社説
16	30/8/5	台湾政治の大目的 一	×		社説
17	30/8/7	榕陰雑記	湖南		『続淚珠唾珠』所収
18	30/8/7	台湾政治の大目的 二	×		社説
19	30/8/8	榕陰雑記	湖南		『続淚珠唾珠』所収、一部改変
20	30/8/11	台湾政治の大目的 三	×		社説
21	30/8/12	榕陰雑記	湖南	×	『続淚珠唾珠』未所収
22	30/8/15	台湾政治の大目的 四	×		社説
23	30/8/18	在台実業家に告ぐ 上	×	×	社説
24	30/8/22	在台実業家に告ぐ 中	×	×	社説 一部原紙欠損
25	30/8/27	在台実業家に告ぐ 下	×	×	社説
26	30/8/29	台湾施政の革新	×		社説
27	30/8/31	乃木総督の責任	×		社説
28	30/10/9	台湾鉄道を如何すべき	×	×	社説
29	30/10/15	韋庵岡本翁の詩	湖南		『全集』署名なし
30	30/10/16	曾根新局長を迎ふ	×		社説
31	30/10/24	台湾鉄道を官設にすべし 上	×	×	社説 「下」なし
32	30/10/30	高野問題の一段落	×	×	社説
33	30/11/23	新竹行記(一)	湖南		
34	30/11/26	新竹行記(二)	湖南		
35	30/12/2	新竹行記(三)	湖南		
36	30/12/3	病間読書記	湖南		
37	30/12/4	〔新竹行記(四)〕	(湖南)	×	原紙欠損多。休刊日から計算し推定
38	30/12/7	新竹行記(五)	湖南		
39	30/12/10	病間読書記(承前)	湖南		(未完)とあるが続なし
40	30/12/14	新竹行記(六)	湖南		
41	30/12/18	台北の社交倶楽部 上	×	×	社説
42	30/12/19	台北の社交倶楽部 下	×	×	社説
43	30/12/28	新竹行記(七)	湖南		
44	31/1/4	明治三十一年の台湾	×		社説
45	31/1/4	見るがまゝ	あまの子		
46	31/1/18	黒頭尊者のたより	黒頭		
47	31/1/19	黒頭尊者のたより 其二	黒頭		
48	31/1/26	黒頭尊者の私信	黒頭		
49	31/2/3	仰笑天俯哭地	黒頭		
50	31/2/26	仰笑于天俯哭于地	黒頭		
51	31/2/27	小田原の病臥龍を訪ふ	黒頭		『続淚珠唾珠』所収

52	31/3/6	畑山呂泣逝く				『日本人』より転載。前書きあり
53	31/3/8	笑哭小牘	黒頭			
54	31/3/9	笑哭小牘	黒頭			『全集』日付誤記
55	31/3/10	小田原の病臥龍を訪ふ	黒頭			『続淚珠唾珠』所収
56	31/3/10	笑哭小牘	黒頭			『全集』日付誤記
57	31/3/11	笑哭小牘	黒頭	×		
58	31/3/18	笑哭小牘	黒頭			
59	31/3/30	新当路者の性情を臆断す	×			社説
60	31/4/2	革新雑議 一	×			社説
61	31/4/3	革新雑議 二	×			社説
62	31/4/5	革新雑議 三	×			社説
63	31/4/6	革新雑議 四	×			社説
64	31/4/8	革新雑議 五	×			社説
65	31/4/10	革新雑議 六	×			社説
66	31/4/12	革新雑議 六	×			社説「六」ママ
67	31/4/14	政治の变革と風俗の移易	×	×		社説
68	31/4/14	書かでもの記	あまの子			
69	31/4/17	断而行之、鬼神避之	×			社説
70	31/4/17	武夫信夫君に答ふ	あまの子	×		
71	unknown	台湾兵士の境遇に就て	(×)			『続淚珠唾珠』所収
72	unknown	榕陰雑記	(湖南)			『続淚珠唾珠』所収
73	unknown	榕陰雑記	(湖南)			『続淚珠唾珠』所収

付表2 基礎年表

慶応2（1866）年

7月18日：内藤虎次郎、南部藩領鹿角毛馬内に生まれる

明治2（1869）年

10月26日：田川大吉郎、長崎県東彼杵郡西大村に生まれる

1883年

：田川、地元中学校に入学。その後長崎外国語学校に入学【遠藤年譜】

1886年

3月：長崎外国語学校廃校。田川、課程を修了するも卒業せず【遠藤年譜】

1887年

8月：内藤虎次郎、上京【全集6、164頁】

1888年

5月：田川大吉郎、上京。東京専門学校法学部邦語政治科に入学。その後英語瑛学科に転科する【遠藤年譜】

11月：田川、東京専門学校除名、帰郷【遠藤年譜】

1889年

2月：田川、再度上京【遠藤年譜】

1890年

1月12日：田川、番町教会にて小崎弘道より授洗【遠藤年譜】

2月：田川、再度東京専門学校法学部邦語政治科に編入【遠藤年譜】

7月：田川、東京専門学校卒業【遠藤年譜】

8月：田川、郵便報知新聞社に入社【遠藤年譜】

1892年

9月：田川、都新聞主筆となる【遠藤年譜】

1894年

3月12日：田川、都新聞退社【遠藤年譜】

5月10日：内村鑑三『地理学考』（警醒社）

29日：田川大吉郎『不平談』（博文館）

6月：田川、通訳官として日清戦争従軍。第一師団通訳事務嘱託【遠藤年譜】

8月25日：内藤虎次郎「所謂日本の天職」【『二十六世紀』第七号】

26日：田川大吉郎『日清之将来』（八尾書店）

1895年

7月9日：河村隆実、台湾総督樺山資紀宛「自費航海之義御願」提出【陸大日記】

10日：上記案件を陸軍省許可【陸大日記】

8月：田川、陸軍通訳依頼退職【遠藤年譜】

10月22日：河村隆実・林常一郎申請の被服運搬宰領者渡航願、陸軍省経理局決済【陸大日記】

日：田川大吉郎、『実業新聞』を発刊【遠藤年譜】

1896年

- 3月 :『実業新聞』廃刊【遠藤年譜】
- 5月12日:河村隆実、陸軍省経理局宛「御願」(台湾建築部職工の被服運搬人宰領として古橋良市を渡航させたい)提出【陸大日記】
- 15日:田川大吉郎『国運の進歩と基督教』(警醒社)
日:田川大吉郎、渡台【遠藤年譜】
(『日日』明治45年5月1日記事に依ると6月あたり)
- 6月 2日:総督更迭。新任桂太郎【大年表】
- 13日:桂太郎着任【大年表】
- 15日:「土匪強盗番害等新聞紙二掲載方決議」【公文類纂】
- 17日:「始政記念祭」、『台湾新報』創刊。『台湾産業雑誌』創刊【大年表】
- 7月 1日:「台湾新報ヲ以テ公布式ト定メルノ件」【公文類纂】
- 8日:総督命令公布式発布(『台湾新報』を公布式とする)【大年表】
:府令第十八号にて公布式【總督府報】
- 18日:田川、民政局通訳囑託として採用【公文類纂】
日:桂太郎、河村隆実に日刊新聞発行を依頼【後藤新平文書】
- 8月 1日:「官吏ノ新聞通信ヲナス者ノ取締方」【公文類纂】
- 10日:『大阪毎日新聞』、「台湾統治策案文懸賞」社告(11月10日〆切)
- 21日:「官吏ニシテ新聞通信ヲナスモノノ取締方内訓」【公文類纂】
- 10月 1日:『台湾新報』日刊化【大年表】
(明治30年6月20日『新報』「本社新報発刊の一週年」では11月5日から日刊化)
- 19日:この頃、内藤の推薦により栃内正六、東京朝日新聞入社。月給25円
【10月19日付西村 村山・上野書簡】
- 14日:総督更迭。新任乃木希典【大年表】
- 23日:田川大吉郎「欧化主義と国粹論」【福音新報69】
- 30日:田川大吉郎「欧化主義について」【福音新報70】
- 11月 6日:田川大吉郎「内外人の協同」【福音新報71】
- 9日:乃木希典着任【大年表】
河村は秘書官木村匡と協議。総督府が3000部を購入すること、公布式掲載で支援を取り付ける【後藤新平文書】
- 12月 7日:「新聞原稿下渡二関スル手續」【公文類纂】
- 12日:「新聞紙二气象掲載ノ件」【公文類纂】
- 24日:「台湾語を研究せよ」【台湾新報】
- 1897年
- 1月 1日:「[台湾日報発刊二関スル件]」【公文類纂】
:[台湾日報無代価上納ノ件]」【公文類纂】
- 5日:田川の年賀広告あり【台湾新報】
- 7日:長浜実・石川源一郎が新報社退社【台湾新報】
- 20日:田川、水野遵に従い台北・台中・台南各県と澎湖島を巡視(～2月24日)
【1/21『台湾新報』】
- 2月12日:「台湾日報ヲ公布式トス」【公文類纂】
- 24日:水野遵、田川ら台北帰還【2/25台湾新報】
- 3月 1日:「台湾新報へ諸公文及報告類掲載継続命令」【公文類纂】
:台湾日報社の職工・記者、器械が台湾へ【後藤新平文書】
- 6日:田川、離台【3/7『台湾新報』】
(『日日』明治45年5月1日記事に依ると30年春先に帰国)

- 25日：『大阪毎日新聞』「懸賞台湾統治策当選者」発表
 27日：懸賞台湾統治策、審査員評公表
 4月10日：田川大吉郎「台湾統治策」、『大毎』紙上にて連載開始（～4/30）
 15日：内藤湖南、大阪を発つ【内藤 村山龍平書翰】
 渡台前の内藤に木村泰治が就職斡旋を依頼【地天老人一代記】
 25日：内藤湖南、基隆着【内藤 村山書翰】
 30日：田川、民政局囑託を解囑【公文類纂】
 5月 4日：『臺灣日報』創刊予告広告掲載【台湾新報】
 ：長浜実・石川源一郎の台日入社広告【台湾新報】
 8日：総督府にて新聞紙条令作成中との報道【台湾新報】
 ：「領台記念日」。『台湾日報』創刊【大年表】
 社長 = 児島碩鳳
 主筆 = 内藤湖南
 漢文主任 = 市府蔵雪
 英文主任 = 宮島巖
 枋内廬山（正六）・木村泰治・石川源一郎【台湾日報7/6記事】
 * 以上スタッフは註記無い限り鐘論文に依るが典拠不明
 * 他にも「支那人記者」数名がいた【内藤 村山書翰】
 * 所在地：台北新起街2丁目27番地
 12日：『台湾新報』記事「台湾日報の発刊」曰く8日に初号、紙面の体裁鮮明なる好新聞。本島の為に同業者を得たるは賀すべし。
 25日：『東京朝日新聞』記事、『台湾日報』発刊を伝える。主筆として内藤の名を挙げる

5/8～6/30 『台湾日報』 マイクロ欠損

- 6月 9日：現在作成中の新聞紙条令は内地と同様。保証金無しと報道【台湾新報】
 14日：この日より木下新三郎が『台湾新報』の事務を執る【台湾新報6/17】
 22日：水野遵民政局長帰台【大年表】
 公布式料400円のみ援助と通達【後藤新平文書】
 日：「榕陰雜記」【全集】
 7月 1日：第30号（記事中に6/28 = 27号と有り）
 発行人・編輯人 = 川野国次
 印刷人 = 池田弘三郎
 体裁 = 4面（第4面は広告） 漢文部は8面（体裁小）
 ：休刊日 = 日曜・大祭日・年首3日・年末2日
 * 購読料 = 1ヶ月60銭、3ヶ月1円70銭、6ヶ月3円15銭、1年6円
 * 漢文部別売り 購読料 = 2銭5厘、1ヶ月25銭、3ヶ月70銭、6ヶ月1円35銭、1年2円60銭
 * 併読は1ヶ月75銭、3ヶ月2円15銭、6ヶ月4円5銭、1年7円80銭
 * 広告料は5号活字24字詰めで1行17銭。漢文部は5号活字29字詰めで1行20銭
 2日：「移風易俗の期 下」【未収録】
 3日：新刊紹介『秋城評論』（秋田市秋城評論社発行）【台湾日報】
 4日：「総督府条例改正の議」【未収録】
 休刊日変更（日曜 月曜）
 6日：「須らく誤解を正すべし」【全集】
 9日：「第三疑獄又起る」【未収録】
 ：台湾日報社印刷部の印刷開業公告（この日からかは不明）

* 汽車時刻表	台北	新竹
	7:00	10:45
	13:30	17:15
	10:57	7:22
	17:27	13:52

7月10日：売捌店一覧
 台北府前街三丁目一番戸渡辺勝用
 新竹米市街松本商会
 台南県安平港安平館
 淡水港福興街二番戸齊藤重友
 新竹県上南苗栗街五葉館山本米治
 台中大?街小川館小川光三
 基隆日新館
 鹿港田中商会戸谷彝

13日：「社告 本社台湾日報は本日より台湾総督府公布式と定められ尚ほ来る十五日よりは新竹県公布式と定められ候間此段購読者諸君に謹告仕候」

：府令第三十四号にて公布式となる【總督府報】

15日：「台湾の地方行政 一」【未収録】

17日：「台湾の地方行政 二」【未収録】

20日：「台湾の地方行政 三」【未収録】

：水野遵民政局長更迭。後任曾根静夫【大年表】

22日：「台湾の地方行政 四」【未収録】

24日：「水野前民政局長を送る」【全集】

27日：「移風易俗の一策」【全集】

：「時還読我書」【全集】

29日：「台湾施政の好望」【全集】

：発行編輯人が変更。河野国次 戸水汪

31日：「変通なき一視同仁」【全集】

8月 1日：「交通機関拡大の急務 上」【全集】

3日：「交通機関拡大の急務 下」【全集】

4日：『東京朝日』に『台湾日報』の広告載る

5日：「台湾政治の大目的 一」【全集】

7日：「台湾政治の大目的 二」【全集】

：「榕陰雜記」【全集】

8日：「榕陰雜記」【全集】

11日：「台湾政治の大目的 三」【全集】

12日：「榕陰雜記」【全集】

15日：「台湾政治の大目的 四」【全集】

18日：「在台実業家に告ぐ 上」【未収録】

22日：「在台実業家に告ぐ 中」【未収録】

27日：「在台実業家に告ぐ 下」【未収録】

29日：「台湾施政の革新」【全集】

31日：「乃木総督の責任」【全集】

：新任民政局長曾根の履歴を西村天囚が寄稿。紹介文を「湖南記」と雑報欄

なのに署名

8月 田川大吉郎、『新報』を辞め内地へ（「報知新聞」へ）【遠藤】

9 / 1 ~ 30 『台湾日報』マイクロ欠損（8 / 31で第82号）

- 9月 : 玉山吟社の宴に内藤湖南出席。詩あり【台湾新報9/5】
- 10月 1日: 第108号。発行人が変更(何時からかは不明)。池田弘三郎 杉田久吉
 3日: 記事「安平のかずかず(つづき)」掲載(告訴事件へ)
 9日: 「台湾鉄道を如何すべき」【未収録】
 : 「官報及新聞雑誌並薬品取扱方二関シ台北県へ回答」【公文類纂】
 11日: 台南地方法院判官大野吉利、『台湾日報』を告訴
 13日: 西門外青物市場にて開催予定の「政談演説会」の演題に向井荒雄「日本国民の天職」などあり【台湾日報】
 15日: 「韋庵岡本翁の詩」【全集】
 16日: 曾根民政局長着任【大年表】
 : 「曾根新局長を迎ふ」【全集】
 18日: 栃内正六、東京を発つ【10/21『東京朝日』】
 日: 曾根宛「台湾日報二付御願」提出【後藤新平文書】
 23日: 台湾協会発起会於建昌街二丁目清涼館。湖南不参加なれど発起賛成者に名を連ねる【台湾新報10/27】
 : 台湾協会仮事務所は千秋街31番戸【台湾日報10/23広告】
 : 木村匡の殖産課長就任茶話会に湖南出席【台湾日報11/25】
 24日: 「台湾鉄道を官設にすべし 上」【未収録】
 28日: 栃内正六、台湾着【31/4/29、栃内「半歳の小観察」】
 30日: 「高野問題の一段落」【未収録】
 : 湖南、荒尾精の法会に出席【台日10/31】
 : 北白川宮追吊大法会(於新竹。11月4日と)の広告【台湾日報】
 : 予告記事「新竹の追悼会」【台湾日報】
 31日: 11月1日開催予定の高野孟矩元高等法院長送別会広告の発起人に内藤虎次郎あり【台湾日報】

11/1~8 『台湾日報』マイクロ欠損

- 11月 4日: 湖南、北白川宮招魂祭のため新竹へ(~9日)【新竹行記】
 10日: 「廬山」署名の「論説 政変に処する合政方針」
 : 「東京京橋区元数寄屋町三丁目一番地 陸地測量部出版地図発行所 昌栄社」発行の「廿万分一台湾全図」広告に社主として河村隆実の名前
 : 紅毛田 - 新竹間の鉄道は風水害で不通中との記事【台湾日報】
 11日: 戸水の病気のため公判延期
 21日: 「台湾諸会社の近情」爛で、林常一郎・河村隆実の合名会社「共伸社」紹介。日清戦争時に軍役夫・軍役職請負をなしたという。
 21日: 湖南、日本銀行台北出張所所長中山尚之介主宰の宴席に出席。本店理事薄井佳久、副支配人町田忠治らの來台巡視記念。官民50名余が出席。総督府 からは民政局長以下課長クラスが出席【11/25『台湾日報』】
 23日: 「新竹行記(一)」【全集】
 26日: 「新竹行記(二)」【全集】
 12月 1日: 台湾倶楽部組織相談会に内藤湖南出席。規則起草その他の準備委員となる【12/1、12/3台湾日報】
 2日: 「新竹行記(三)」【全集】
 3日: 「病間読書記」【全集】
 4日: 「新竹行記(四)」【未収録・原紙欠損】
 5日: 記事「名字競、姓競(台北名物)」に「内藤虎次郎(湖南)」登場【台日】
 7日: 「新竹行記(五)」【全集】

- 9日：「新聞社へ無料広告〔掲載〕命令書式」【公文類纂】
 : 内藤虎次郎名で「接客 日曜ノ外午前八時ヨリ十時マデ 午後六時ヨリ八時マデ」広告【12/9「台日」】
- 10日：「病間読書記（承前）」【全集】
- 14日：「新竹行記（六）」【全集】
- 16日：投書「地方法院の誤判」掲載（告訴事件へ）
- 21日：於台北地方法院、発行編輯人戸水汪・印刷人杉田久吉に対する公判開廷
- 22日：記事「本社官吏侮辱被告事件公判」「我が身の上」（戸水汪）
 : 於台北地方法院、判決
- 23日：記事「官吏侮辱被告事件の判決」「公判傍聴余録」（傍聴子）
- 24日：記事「公判傍聴余録（つづき）」（傍聴子）
- 25日：秋田県人忘年会於西門街魚金【台湾日報12/25広告】
- 28日：「新竹行記（七）」【全集】

1898年

- 1月 4日：内藤虎次郎名で「小生事急用ノ為メ本日出発上京致候此段辱知諸君ニ謹告ス」【1月4日付『台湾日報』広告爛】
 : 新年初号。新年挨拶広告に社長以下の名前あり
 河村隆実（社長）、児島碩鳳（主幹）、以下「編輯員」として、内藤虎次郎、
 栃内正六、宮島巖、松岡又五郎、本田浜太郎、市村矩義、木村泰治、長浜実、
 石川源一郎、古兼榮太郎、吉田要、中川岩次郎、劉石蘭、粘舜言、呂玉峰
 （以上順番ママ）
 : 発行人・編輯人が塩坂鍵治、印刷人が檜山千松に変更
 : 共伸社出張所年賀広告。新起街2丁目29番地。「衡器販売所」とあり
 : 「明治31年の台湾」【全集】
 : 「見るがまゝ」【全集】
 : 「君子撃鼓歌」（署名は不癡不慧生）【未収録】
 : 巖本善治「遊観一二」（1/4 - 5）連載。「湖南詞兄のお要めあるに付き」とあり。
- 5日：内藤湖南、台中丸にて出発【台湾日報1/7台中丸船客名簿】
- 14日：戸水汪の保釈出獄広告【台湾日報】
- 18日：「黒頭尊者のたより」【全集】
- 19日：「黒頭尊者のたより 其二」【全集】
 : 「黒頭尊者の私信」【全集】
- 20日：台湾新報社社長の交代広告（山下秀美 木下新三郎）【台湾日報】
- 23日：論説「台湾教育会の組織に就き」で栃内廬山は「廬山一個の私見にして固より悉く本社の意見と合するに非ず」とする。
- 29日：発行人・編輯人が塩坂鍵治、印刷人が前島義一に変更
- 2月 3日：「仰笑天俯哭地」【全集】
- 26日：「仰笑于天俯哭于地」【全集】
- 27日：「小田原の病臥龍を訪ふ」【全集】
- 3月 6日：「畑山呂泣逝く」【未収録】
- 8日：「笑哭小牘」【全集】
- 9日：「笑哭小牘」【全集】
- 10日：「小田原の病臥龍を訪ふ」【全集】
 : 「笑哭小牘」【全集】
 : 石川源一郎『台湾新報』へ転じる【台湾日報3/10広告】
- 11日：「笑哭小牘」【全集】

- : 児島碩鳳「社用上京」【台湾日報 3 / 1 1 広告】
- 1 8 日 : 「笑哭小牘」【全集】
- 2 3 日 : 秋田県人懇親会広告【台湾日報 3 / 2 3 広告】
- 2 4 日 : 発行人・編輯人が前島義一、印刷人が塩坂鍵治に変更
- 2 5 日 : 児玉源太郎・後藤新平が台中丸にて馬関発【台湾新報 3 / 2 6 】
- 2 8 日 : 児玉・後藤、基隆着。内藤湖南、児島碩鳳も同船で帰着【新報 3 / 2 9 】
- 3 0 日 : 「新当路者の性情を臆断す」【全集】
- : 『台湾日報』広告欄に 2 8 日帰社と児島碩鳳・内藤虎次郎連名広告

3 / 3 0 以降、中央図書館台湾分館所蔵『台湾日報』マイクロ欠損
(1 ~ 4 月終刊までは国会図書館・明治新聞雑誌文庫がマイクロ所蔵)

- 4 月 2 日 : 「革新雑議 一 官吏淘汰」【全集】
- 3 日 : 「革新雑議 二 地方行政の組織」【全集】
- 5 日 : 「革新雑議 三 移民に対する措置」【全集】
- 6 日 : 「革新雑議 四 司法制度」【全集】
- 8 日 : 「革新雑議 五 財政の措画 (上) 」【全集】
- 1 0 日 : 「革新雑議 六 財政の措画 (下) 」【全集】
- 1 1 日 : 官吏侮辱事件覆審法廷開廷
- 1 2 日 : 内藤湖南送別会於清涼館【台湾新報 4 / 1 4 】
- : 「革新雑議 六 匪撫蕃の方略」【全集】
- 1 4 日 : 「政治の变革と風俗の移易」【未収録】
- : 「書かでもの記」【全集】
- 1 7 日 : 「断而行之、鬼神避之」【全集】
- : 「武夫信水君に答ふ」【未収録】
- : 湖南、台中丸にて離台【台湾新報 4 / 2 0 】
- : 内藤虎次郎名で「本日出発上京」広告【台湾日報】
- : 「台北芸者総代の送辞」で本田浜太郎も帰国することが判明【台湾日報】
- 2 0 日 : 官吏侮辱事件覆審法廷、戸水・杉田に有罪判決【台湾日報 4 / 2 1 】
- 2 9 日 : 廃刊広告
- : 「府令二一號臺灣日日新報ヲ以テ公布式トス、臺灣新報廢刊届、臺灣日報
廢刊二付公布式免除願、臺灣日日新報社公布式命令、臺灣日日新報ヲ以テ 公
布式トス」【公文類纂】
- : 枋内廬山「半歳の小観察」

1 9 0 1 年

- 1 月 1 日 : 「剔燈漫録 上」【台湾日日新報】
- 5 日 : 「剔燈漫録 下」【台湾日日新報】

1 9 2 5 年

5 月 1 日 : 田川大吉郎『台湾訪問の記』(白揚社) 刊行、附録に「台湾統治策」再掲
(台湾では発行禁止)